

令和7年度第3回大槌町総合教育会議

日時 令和8年2月20日（金）午後1時から
場所 大槌町役場 3階 大会議室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 協 議

「けやき共育」の進捗状況について

4 その他

5 閉 会

令和7年度第3回大槌町総合教育会議 出席者名簿

委員

役 職	氏 名	備 考
町長	平野 公三	
副町長	菊池 学	
教育長	松橋 文明	
教育委員	大萱生 都	
教育委員	谷藤 怜美	
教育委員	芳賀 新	
教育委員	木村 里美	

有識者

役 職	氏 名	備 考
東京学芸大学 名誉教授 尚綱学院大学 特任教授	小池 敏英	
東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部医師	佐藤 駿一	
認定特定非営利活動法人カタリバ オンライン不登校支援事業責任者代理	阿久津 遊	

事務局

役 職	氏 名	備 考
総務課長	藤原 淳	
健康福祉課長	小國 晃也	
学務課長	米沢 俊哉	
総務課主幹	岩間 純子	
総務課 課長補佐兼総務係長	祝田 潤昌	
学務課 課長補佐兼大槌型教育推進係長	関谷 辰也	
学務課大槌型教育推進係指導主事	金子 裕輔	
学務課大槌型教育推進係指導主事	照井 善博	
学務課スクールソーシャルワーカー	南 景元	
学務課教育相談員	大森 厚志	

令和7年度 大槌町総合教育会議 ご提案書

— 令和7年度 けやき共育の進捗状況報告を受けて —

1. 大槌町の進捗状況報告を踏まえて

大槌町の「けやき共育」を中心とした地域一体の取組みは、この地域ならではの背景と向き合いながら育まれてきた実践であり、特に地方の同程度の人口規模の自治体にとって参考になるさまざまな示唆に富んだ活動なのではないか。

- 「誰も取りこぼさず、孤立させない」ことを軸に支援が組み立てられていること（全員面談等）
- 「多様なニーズがあること」を前提とした設計がなされていること（周知方法、多様な入り口の設計等）
- 不登校の低学年増加など、変化し続ける子どものニーズに対して、柔軟に取り組みを更新し続けていること
- 関係者の連携や役割分担をしやすい仕組みや枠組みがあること（ケース会議、けやきケースシートの活用など）
- 高校生以降の居場所づくり、家庭支援など、長期的な視点で子どもと家庭を支えようとしていること

主に不登校支援を通じた、**多様なニーズと個別最適な学びと生活を支える教育の基盤**を地域に拡げ、それが当たり前の日常になる可能性のある取組みなのではないか。

2. 今後さらに深めたい観点

進捗状況報告を踏まえて、今後は次の点についてより理解・検討を深めたい。

- 学園の教員が、けやき共育をどのように受け止め、日常の学園での実践にどうつなげているか
- 持続可能な支援を見据えた支援者支援のあり方をどのように考えるか
- 不登校を経験した子どもたちの、その後の自立に向けた中長期的な支援をどのように考えるか
- 複雑化・多様化する家庭・保護者のニーズへの対応をどのような体制、仕組みで行うか
- 全国的にも、教育と福祉の連携、SSWやSCの活用等が課題な中、地域一体となった不登校支援のモデルとして、どのようにそれらの知見や実践を可視化・発信していけるか。

3. ご提案：けやき共育を軸にした、学園での日常的な運営・実践に向けて

不登校の児童生徒だけでなく、学校に戻った子どもや表面化していないニーズを抱える子どもにとっても学園の日常生活そのものが安心安全で、多様なニーズに応えられる場であることが重要である。

そのために、けやき共育を「特別な支援」ではなく、学園の日常を支える仕組みとしてもさらに位置づけていく可能性を考えたい。けやき共育を通じて、個別の支援が必要になる前の段階から子どもを支えられる学園の基盤を強化していく、という視点も含まれている。

①学園の「ちょっと気になる子」も気軽に共有相談できる場や仕組み

②実践知を循環させる仕組みや場づくり
(事例共有・検討会)

③多様なニーズや複雑な背景を理解する勉強会・対話の場

3. ご提案：けやき共育を軸にした、学園での日常的な運営・実践に向けて

①学園の「ちょっと気になる子」も気軽に共有相談できる場や仕組み

- 授業は聞いているが課題に手がつかない、授業中は席にいるが、周囲と関わらず一人で過ごすことが多い
- 最近急に荒っぽくなった、急に無口になったり、意欲が低下したように見える
- 言葉で表現することが苦手で、質問や意見が出せない
- 友人関係のトラブルが続く、文字を書くことを拒否しがち etc..

→**担任の負担軽減とチーム支援の文化形成**：「まだ不登校や登校しぶりには至っていないが、担任がどこかで気にかけている子どもや保護者」について、クラスの枠を超えて共有し、チームで見立てを行う場。

→**早期発見・未全対応の促進**：問題が深刻化してから対応するのではなく、変化の芽に早めに気づき、支援の選択肢を広げることを目的とする。担任が一人で悩みを抱え込まず、「チーム学校」「チーム大槌」として子どもを支える文化を育てることにもつながるのではないか。（部会等の日常的な会議の場があれば、定期的なアジェンダとして組み込めないか）

→**専門職との日常的な関係構築**：あわせて、SSWやSCとのより日常的な関係構築・相互交流の場としても機能させていきたい。

3. ご提案：けやき共育を軸にした、学園での日常的な運営・実践に向けて



冊子「こども食堂エピソードブック ある日のこども食堂 ～“ちょっと気になる子”との関わり～」リリースのお知らせ

「こども食堂の方々は、日々たくさんの子どもやその家族とお会いしていることと思います。その中で、“ちょっとしたこと”から「あれ？この子の様子ちょっと変だな」「この子はおうちでちゃんとご飯食べられているのだろうか」などと気づくことがあるかと思ひます。こども食堂の方々のこの“気づき”が、子どもや家族を“支えて”いるのではないかと、私たちは考えました。

むすびえでは、こうしたこども食堂の“ちょっと気になる子”を支える力を改めて言葉で共有し、経験や知見を分かちあうために、「こども食堂エピソードブック ある日のこども食堂 ～“ちょっと気になる子”との関わり～」を作成しました。本書は、2020年夏ごろから26箇所のこども食堂の方々に伺った71のお話の中から、特に10の事例を取り上げストーリーを紹介しています。こども食堂の方々に読んでいただき、「そうそう、こども食堂ってそういうこともあるよね」って思っていただったり、「そんな取り組みをしているこども食堂もあるんだ」と参考にさせていただければと思ひ、作成しました。」（WEBサイトより）

→本事例集を参考として共有したいのは、「冊子をつくること」自体が目的ではなく、その過程で生まれる対話や振り返り、気持ちの共有こそが支援の質を支えている点に価値があると思ひ、

3. ご提案：けやき共育を軸にした、学園での日常的な運営・実践への伴走

②実践知を循環させる仕組みや場づくり（事例共有・検討会）

- 友人関係のトラブルケース
- タッチ登校から支援につながったケース
- 学習支援や居場所提供がうまくいったケース・逆に試行錯誤が必要だったケース
- 外出ができない状態から教育支援センターへの定期通所に至ったケース
- 保護者の就労や生活状況に応じたサポートが子どもの学習・生活に影響したケース
- 高校進学・通信制進学後の学習や生活に関する家庭支援のケース etc...

→**学びの幅を広げる**：うまくいったケースだけではなく「難しかった」「対応に迷った」ケースも含めて共有する事例検討会を行うことで、現場の判断力や対応力の幅を広げる。

→**学校や地域の知見を結集**：教員の方々をはじめ地域の方も含めて行うことで、ひとつのケースを地域・学園全体の共有知見にしていきたい。

→**次の支援への活用**：共有した知見をもとに、今後の支援や対応策をチームとして検討・改善する文化を育むことにもつながる。

3. ご提案：けやき共育を軸にした、学園での日常的な運営・実践への伴走

③多様なニーズや複雑な背景を理解する勉強会・対話の場

- 読み書きに難しさを抱える子への関わり、ADHD・ASDなど発達特性を持つ子どもの行動や学び方の理解
- 不登校の子の心のエネルギー、タッチ登校や段階的な学校復帰の支援の工夫
- どこにつなげばいいかわからないケースの対応、教員・SSW・SC・地域関係者との連携の仕組みと役割理解
- 震災後の家族の変化と子どもへの影響、保護者の就労状況・生活困難が子どもに与える影響etc...

→**気づきと学びの共有**：レクチャー形式だけでなく、双方向な対話型の場を教員一人ひとりの実感や悩み、工夫が共有され、支援の視点が学園全体に広がることを目指したい。

→**幅広い理解の促進**：不登校や発達特性に関するテーマに加え、福祉や心理に関するテーマ、大槌町の子どもたちが育つ社会的・歴史的背景を理解する、教員同士で思いを共有し合う

*なお、オンデマンド教材等の活用を通じて、既存の研修や会議体の冒頭10分をミニレクチャー・ミニ勉強会等の枠として抑えるなど、現実的に持続可能な方法も考えたい・・・！

4. ご提案：家庭まるごと支援の拡充

子どもの不登校や学習・行動面の多様なニーズの背景には、**保護者自身の心身の不調、就労や経済の不安、兄弟や姉妹のニーズなど、家庭全体の課題**が重なっていることが少なくなく、時代の変化とともにさらにその傾向は強まることが懸念される。大槌町はすでに、子どもと家庭の複雑な課題が重なり合う現実に向き合い、けやき共育を軸に実践的な対応を積み重ねてきた地域である。

多様な保護者支援の選択肢の拡充や、教育や行政の枠を超えた家庭支援のポイントを整理・可視化することで、他の自治体にとっても参照可能なモデルになることにつながるのではないか。

①家庭まるごと支援の
保護者支援の拡充

②家庭まるごと支援のための
部局間連携のポイントの整理・可視化

4. ご提案：家庭まるごと支援の拡充

①家庭まるごと支援の保護者支援の拡充

- **家庭支援目線での情報発信**：子育て、就労、家計、心身の不調等の相談窓口や支援の選択肢をけやき共育のメディアや教育支援センターのチラシ等で発信していく等。家庭を支援する役割を教育センター等が単独で担うということではなく、子どもを通して日常的につながっている場だからこそ、保護者が福祉等町長部局の支援につながる「入口」としてより機能させていきたい。
- **町長部局と連携した保護者会の開催**：子育ての悩みだけでなく、保護者自身の就労・家計・心身の不調など、学校では扱いにくいテーマも、地域子育て支援センターや福祉・就労支援の担当者と一緒に扱うことで、「困ったらここにつながっていい」という入口をつくる。学校・けやきとつながっているからこそ参加しやすく、行政の支援にも自然につながる橋渡しの場として機能させる。
- **体制づくりや判断基準の可視化**：保護者の困りごとを「家庭の問題」で終わらせず、教員・SSW・関係機関でどう見立て、どうつなぐかを共有することで、担任が一人で抱え込まない体制をつくる。実際のケースをもとに、「このサインが出たらこの支援につなぐ」といった判断の目安を学園全体で蓄積していくことが、日常の支援力の底上げにつながる。

4. ご提案：家庭まるごと支援の拡充

②家庭まるごと支援のための 部局間/町内外の連携のポイントの整理・可視化

家庭の課題の多くは、学校だけでは対応できない領域にまたがっていることも少なくない。そのため、教育委員会・福祉・就労支援・子育て支援等が、個別の家庭を軸に情報を共有し、**どの段階で、どの部局と、どのようにつながるのか整理された連携の枠組み**を持つことが重要ではないか。

- 把握した家庭の困りごとをどのように見立て、どのような観点や目標で福祉や就労支援へ橋渡しするのか
- 子どもの進学や就労の選択肢について、**町内外のどの機関と情報を共有するのか。**

等々の判断の目安や連携ルート等の部局間連携時の観点を、チェックポイントやフローとして可視化しておくことが考えられる。こうした判断の視点や連携の流れを、関係者が共通して参照できる形で整理しておくことで、担当者が変わっても対応の質や方向性が大きくぶれにくくなるのではないか。



「けやき共育」の進捗状況について

大槌町教育委員会

本日の説明 ～ 「けやき共育」 の進捗状況～



- ① 不登校（傾向）児童生徒への支援
 - ア 「けやき共育」の支援体制の構築と充実
 - イ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解
- ② 新たな学びへの取り組み
- ③ 一貫した魅力的な教育を創る～幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施～
- ④ 令和 8 年度の推進計画

本日の説明 ～ 「けやき共育」 の進捗状況～



① 不登校（傾向）児童生徒への支援

ア 「けやき共育」の支援体制の構築と充実

イ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援
についての理解

② 新たな学びへの取り組み

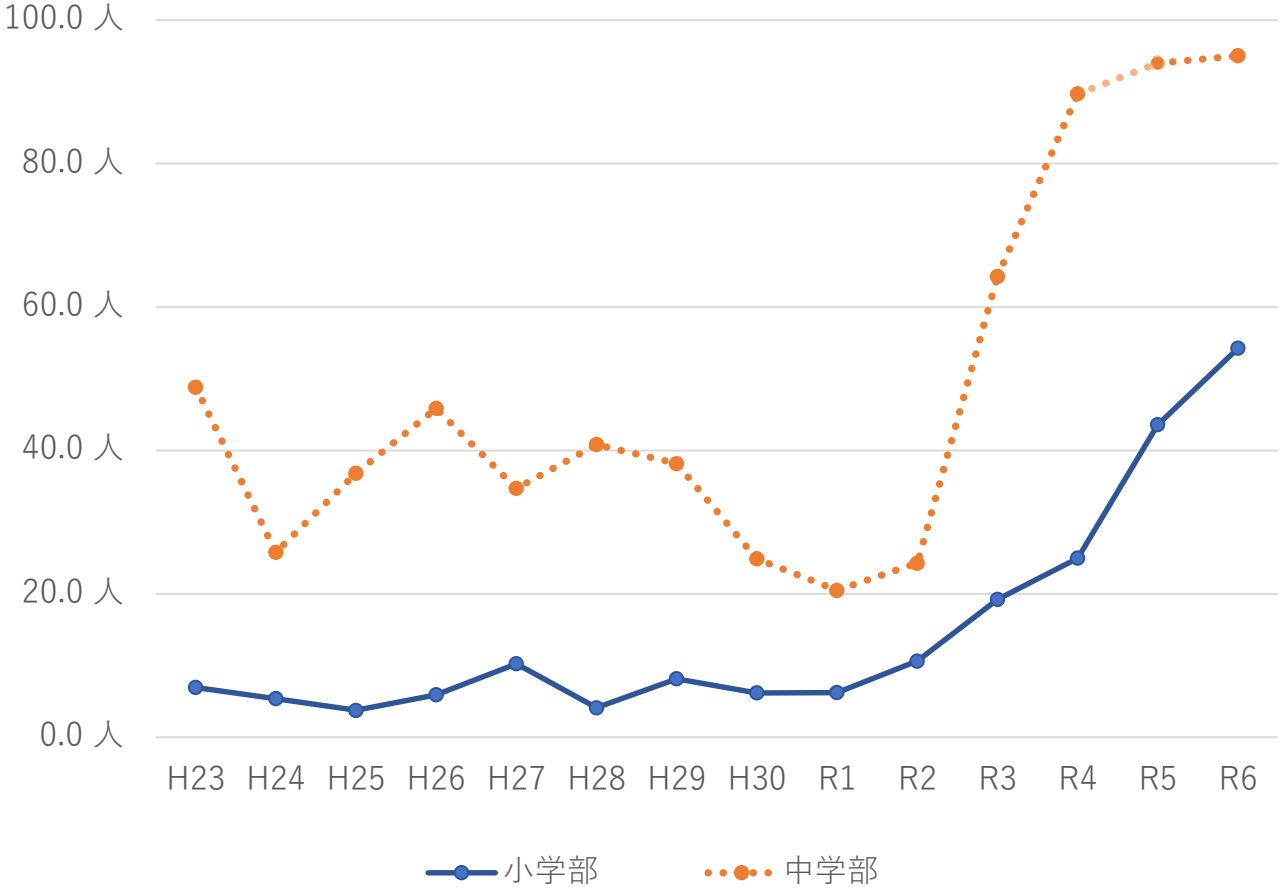
③ 一貫した魅力的な教育を創る～幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施～

④ 令和 8 年度の推進計画

不登校児童・生徒の推移

・ 大槌町不登校児童・生徒出現率の推移(30日以上欠席)

	小学部			中学部		
	不登校児童生徒数	児童数※3月時点	出現率※1000人あたり	不登校児童生徒数	生徒数※3月時点	出現率※1000人あたり
H23	4	576	6.9人	19	389	48.8人
H24	3	556	5.4人	9	349	25.8人
H25	2	533	3.8人	13	353	36.8人
H26	3	507	5.9人	15	327	45.9人
H27	5	488	10.2人	11	317	34.7人
H28	2	487	4.1人	12	294	40.8人
H29	4	491	8.1人	10	262	38.2人
H30	3	484	6.2人	6	241	24.9人
R1	3	481	6.2人	5	244	20.5人
R2	5	470	10.6人	6	247	24.3人
R3	9	468	19.2人	16	249	64.3人
R4	12	481	24.9人	21	234	89.7人
R5	20	459	43.6人	22	234	94.0人
R6	25	461	54.2人	21	221	95.0人
	岩手 (R5)		15.8人	岩手 (R5)		55.1人
	全国 (R5)		21.4人	全国 (R5)		67.1人



不登校（傾向）児童生徒への支援

不登校児童・生徒の推移

- 令和6年度から令和7年度1月までの不登校児童・生徒の推移と主な要因

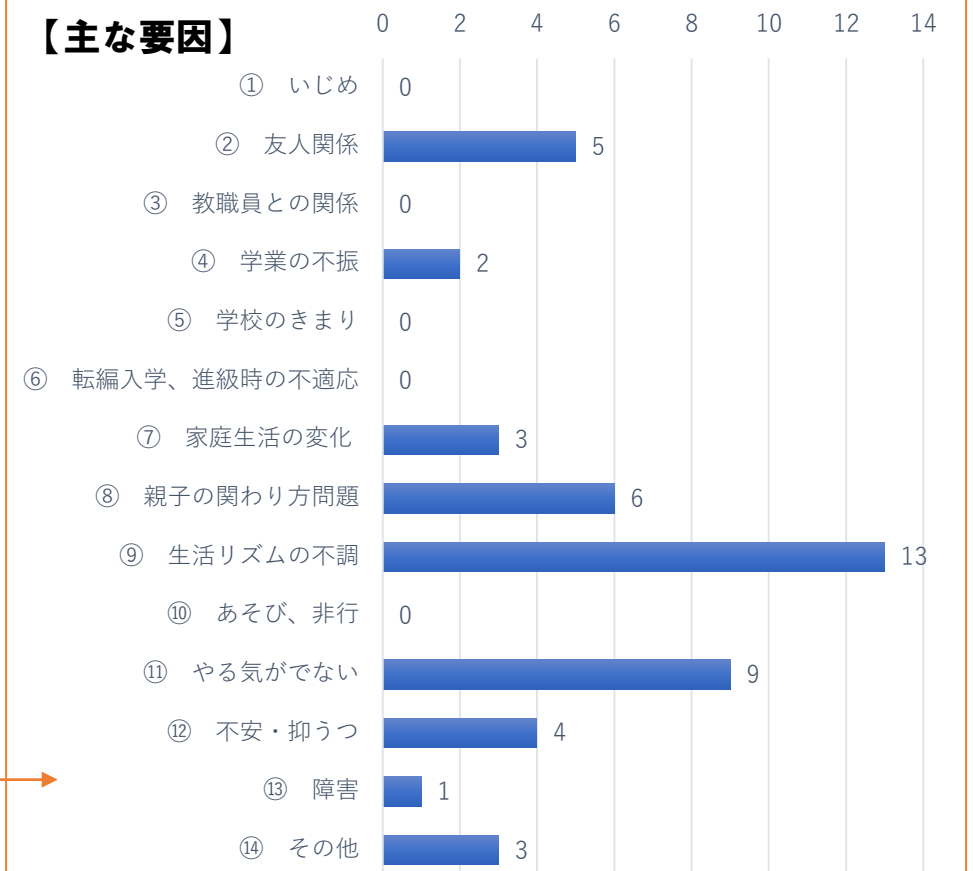
令和6年度 ※4月は7日以上 5月から30日以上

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学校	5	1	3	7	7	15	17	20	22	23	25	25
中学校	7	3	5	8	10	11	13	15	18	19	21	21
合計	12	4	8	15	17	26	30	35	40	42	46	46

令和7年度 ※4月は7日以上 5月から30日以上

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学校	7	1	5	6	6	11	13	17	20	22		
中学校	9	3	6	8	9	18	20	24	24	24		
合計	16	4	11	14	15	29	33	41	44	46		

【主な要因】



第2回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果

- ▶**調査目的**：大槌町が推進している大槌型教育（一貫教育・ふるさと科等）の推進状況について、児童生徒への質問紙調査結果をもとに評価・検証し、成果や課題を明確にすることで、大槌の子どもたちの「豊かな育ち」と「確かな学び」の実現に寄与できるようにする。
- ▶**調査期間**：令和7年12月（第2回） ※第1回は7月に実施
- ▶**調査対象**：大槌学園及び吉里吉里学園4学年以上の全児童生徒

(人)	4学年	5学年	6学年	7学年	8学年	9学年	合計
大槌学園	74	57	67	74	58	75	405
吉里吉里学園	10	17	13	9	6	12	67
町全体	84	74	80	83	64	87	472

第2回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果

▶検証の視点

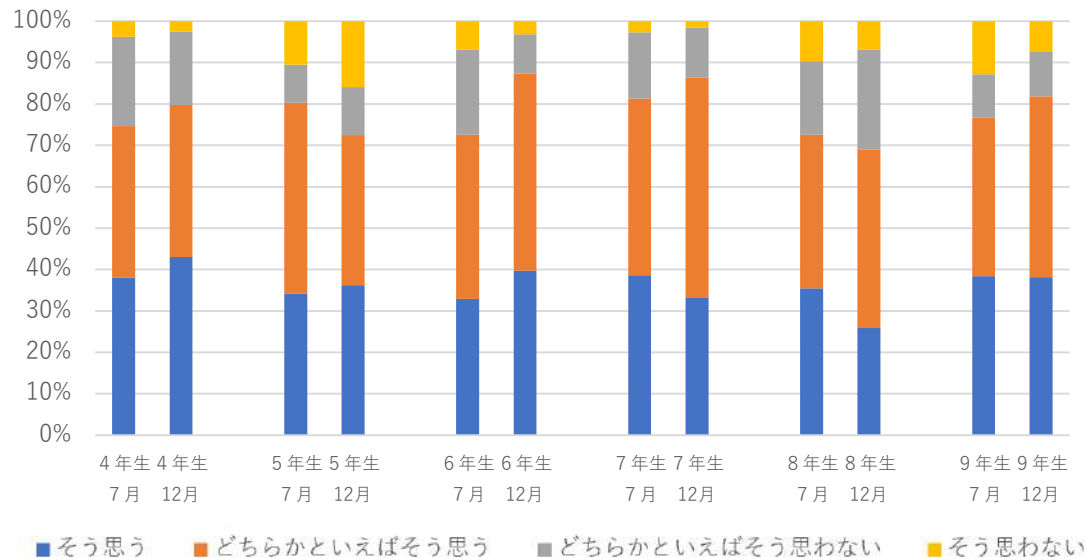
- ・新規の不登校児童・生徒を未然に防ぐ手立て(ウェルビーイング)の評価・検証
- ・経年のデータを基に強い肯定的回答の割合で評価・検証

▶検証のための項目

- 1 自分にはよいところがありますか。(自己受容)
- 2 学校に行くのは楽しいと思いますか。(主観的幸福感)
- 3 いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。(尊重・道徳観)
- 4 まちがうことを気にせずに、授業に取り組んでいますか。(挑戦と周囲のウェルビーイング)

第2回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果

【項目1】自分にはよいところがありますか。（自己受容）



<積極肯定の推移>

R5		R6		R7	
第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
34.7%	30.8%	38.9%	36.6%	36.4%	36.4%

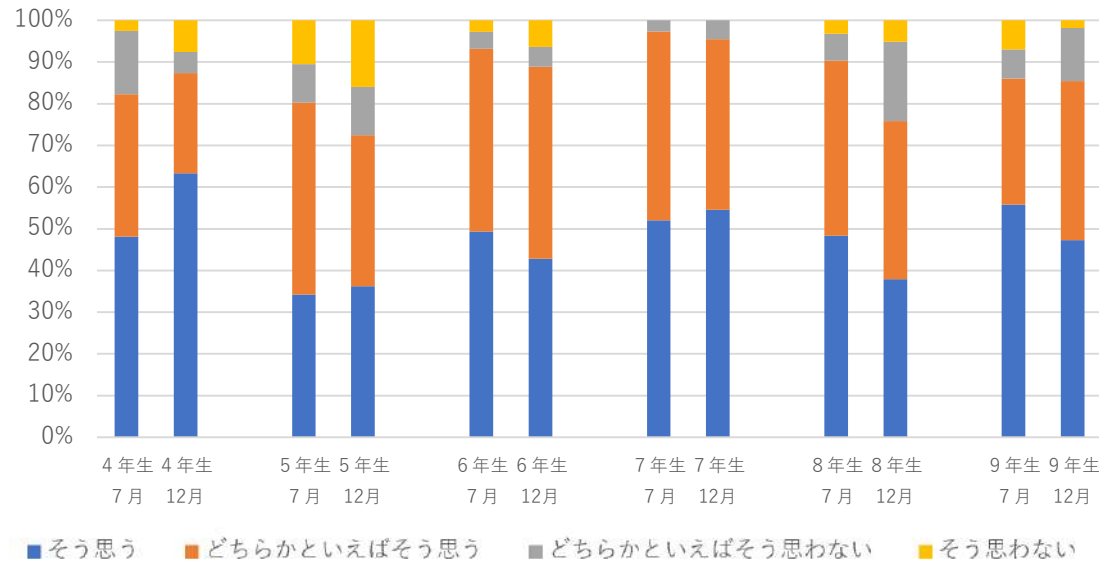
【参考】令和7年度全国学調の同質問の積極肯定結果

	R7岩手県	R7全国
児童（小6）	44.8%	47.3%
生徒（中3）	38.3%	40.7%

全体の3割超の児童生徒が積極的に肯定回答しているが、県、全国に比べ低い数値である。不登校（傾向）を未然に防ぐ観点から、集団内に自分の居場所見だし、自己肯定感を高めることはとても重要なことだと考えられる。学級経営及び授業改善の両面から、自己のよさを実感できる機会、活躍できる機会の意図的な設定や、個々の児童生徒のよさを認め、伝えることのできる対話場面の設定等の積極的な取り組みを推進したい。

第2回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果

【項目2】 学校に行くのは楽しいと思いますか。（主観的幸福感）



<積極肯定の推移>

R5		R6		R7	
第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
51.6%	46.9%	54.1%	49.9%	48.1%	47.7%

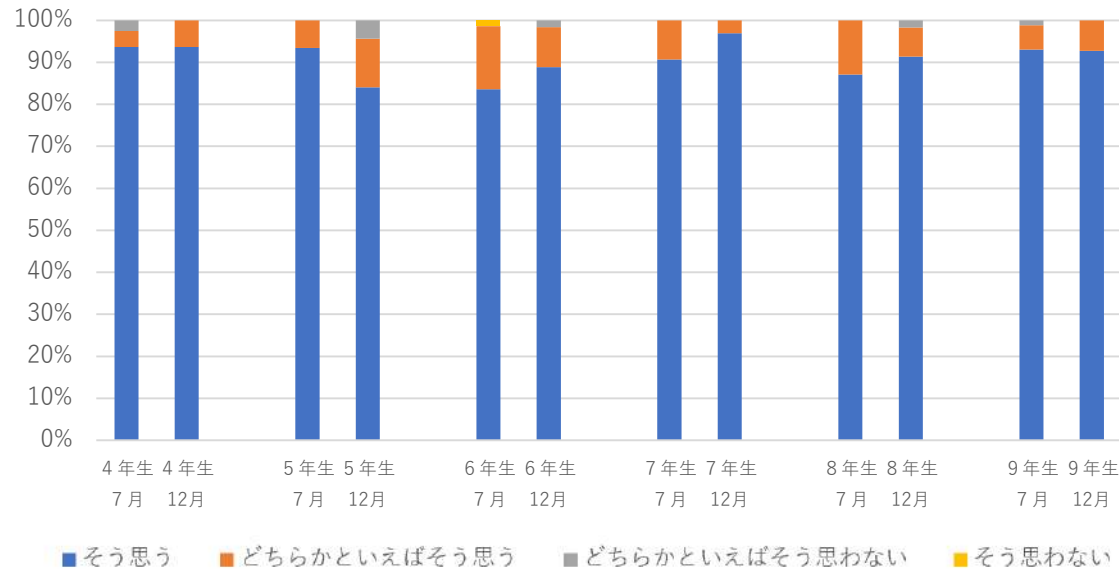
【参考】 令和7年度全国学調の同質問の積極肯定結果

	R7岩手県	R7全国
児童（小6）	48.1%	49.9%
生徒（中3）	45.2%	45.6%

県や全国と比較すると高めに推移しており、これまでの教職員の諸活動での工夫、尽力により、多くの児童生徒が学校への登校に対して前向きな印象を有している点が示されている。これまで2回目のアンケートの方が下がる傾向が見られてきたが、今年度はあまり変化しておらず、4学年のように大幅に数値が上がった学年もある。そのような学年・学級経営や講じた手立てなど、校内でも共有したり学ぶ機会があるとよい。また、否定的回答をした児童生徒に対して、個別の相談機会の設定等を通して、本人の意向に沿った学習等の場や機会の提供に向けた支援を行うことも重要であると考えられる。

第2回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果

【項目3】 いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。（尊重・道徳観）



<積極肯定の推移>

R5		R6		R7	
第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
84.3%	84.9%	89.8%	84.9%	90.5%	91.3%

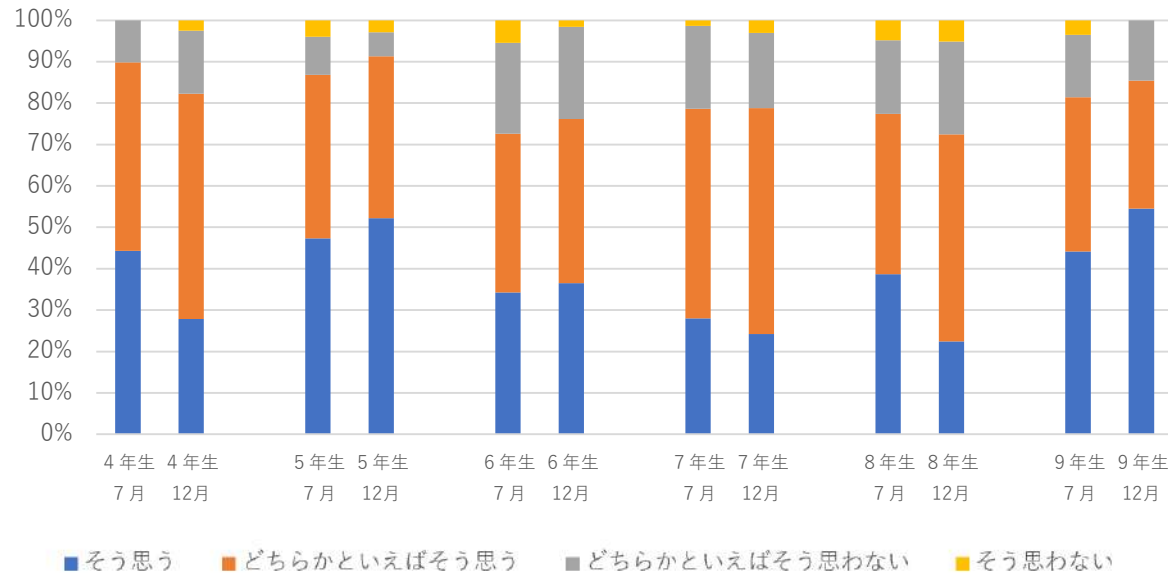
【参考】令和7年度全国学調の同質問の積極肯定結果

	R7岩手県	R7全国
児童（小6）	84.0%	81.4%
生徒（中3）	80.7%	77.1%

全体の9割を超える児童生徒が積極的に肯定回答し、これまでの教職員の尽力により、多くの児童生徒が他者の権利や尊厳を守ろうという認識を有している点が示されている。県、全国と比較しても高い数値である。また、今年度1月末までの町内両学園でのいじめ認知件数は5件といじめ事案の発生は少数であり、上記認識に基づいた児童生徒の望ましい行動が実践されている点が推察される。積極肯定100%を目指すべき項目であるため、プロアクティブな生徒指導を今後も展開していく必要がある。

第2回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果

【項目4】 まちがうことを気にせずに、授業に取り組んでいますか。（挑戦と周囲のウェルビーイング）



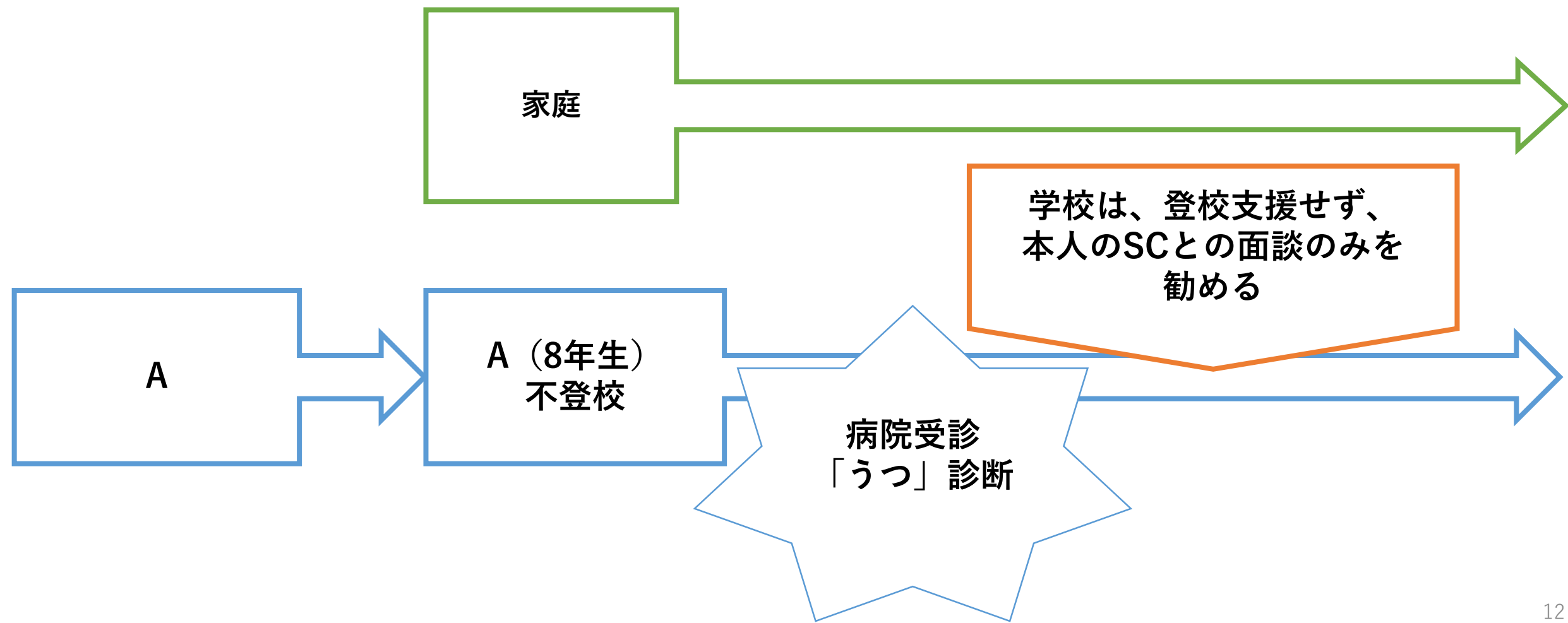
<積極肯定の推移>

R6 第1回	R6 第2回	R7 第1回	R7 第2回
40.2%	32.6%	39.7%	35.9%

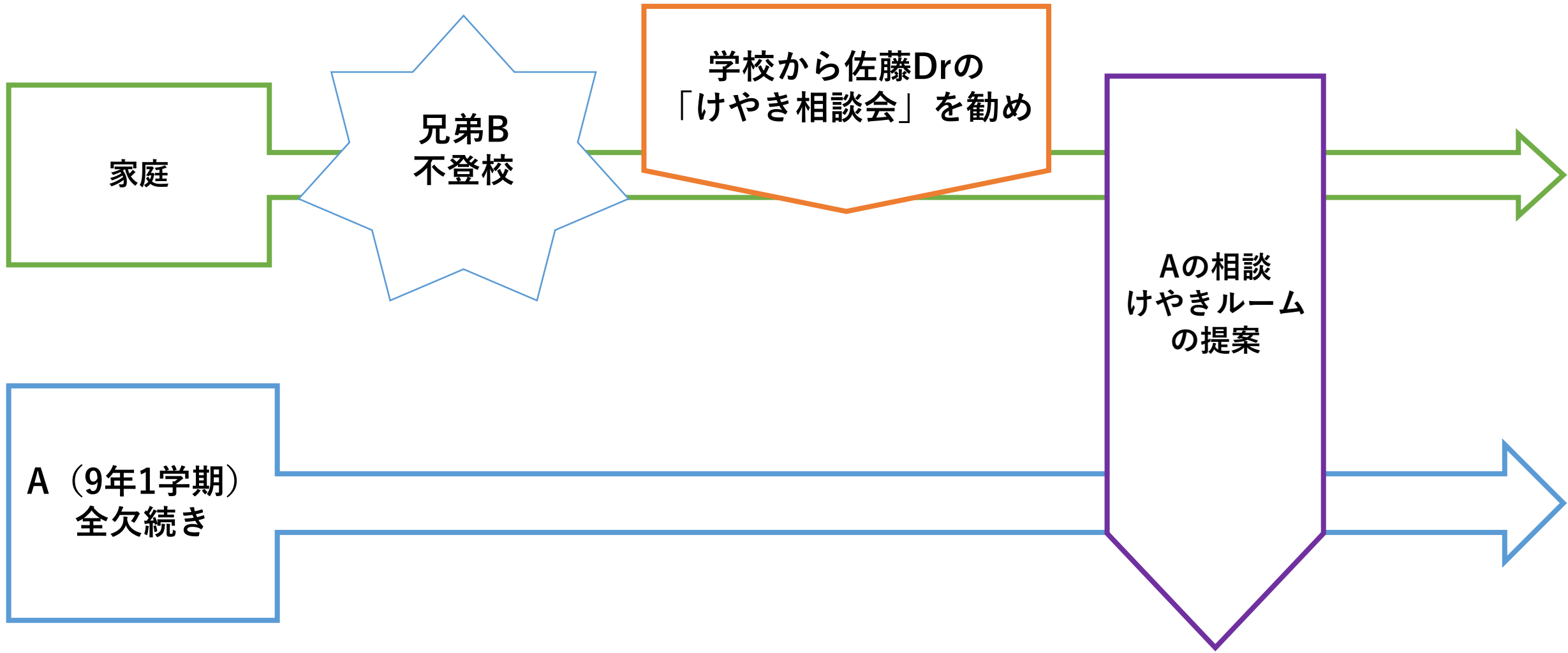
昨年度より1回目から2回目のアンケートの落ち込みは小さかった。肯定回答で捉えると約8割の児童生徒が間違いを気にせず授業に参加できている。この項目の積極肯定の割合を上げるためには、間違ふことで学びが深まるといった体験をさせることや、間違っても大丈夫という安心感を持たせる声掛けや工夫を、様々な場面で実践していくことが大切である。いじめやからかいのない心理的安全が確保される集団づくりも必須である。また、児童生徒は正答のみを求める心理がはたらくため、答え合わせ的な授業ではなく、資質能力の育成に根差した授業改善をさらに推進していく必要がある。

不登校（傾向） 児童生徒への支援

- 生徒:Aさん(不登校)
- 家族関係:父、母、A、兄弟B
- Aの状況:中学生になり、不登校。病院受診し、うつ診断。



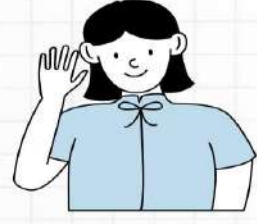
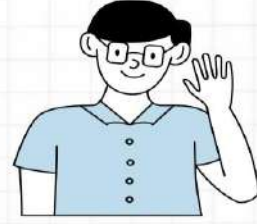
不登校（傾向）児童生徒への支援



不登校（傾向）児童生徒への支援

子どものころのお医者さんによる

けやき相談会 のご案内



大槌町教育委員会が主催して行う相談事業です。
大槌町役場や園・学校などで、子どものころのお医者さんに、お子さまの家庭内・園内・学校内での困りごとをなんでも直接相談できます。

どんな時に利用できるの？

不安が強い、気持ちが落ち込んでいる、
ストレスがかかると腹痛・頭痛が続く、眠れない、
食欲がない、得意・不得意なことの差が大きいこと
が気になる・・・

など、なんでもご相談ください。どういことをしたら良いか、
について相談・助言を行います。

相談の秘密は守りますが、ご家族が希望すれば、けやき相談チーム（スクールソーシャルワーカー（SSW）、スクールカウンセラー（SC）、教育相談員）や、園・学校の先生なども共有しながら、みんなでどうしたら良いかを考えていくこともできます。

相談に乗る人



佐藤駿一先生

2023年から0～18歳の子どもの学びをつなぐ「けやき共育」のアドバイザーを行っている、佐藤駿一先生（東京大学医学部こころの発達診療部所属）が相談に乗ります。

申し込み方法

方法1 園や学校経由での申込

園や学校の先生に、連絡先とともに申し込み旨をお伝えください。
後日、SSW（スクールソーシャルワーカー）の南景元からお申込者様にご連絡します。

方法2 個人での直接申込

直接SSWの南景元（0193-42-6100）までお電話でご連絡ください。

相談の流れ

01 日程調整

初回相談の日程と場所を、SSWの南と調整します。場所は、町役場や園、学校、家庭から選ぶことができます。

02 相談当日

ご家族と本人で、決められた場所にお越しください。約1時間程度、佐藤先生が個別に相談にのります。
ご家族の方のみの相談も可能です。

03 相談後

佐藤先生が園・学校を訪問して直接お子さまの様子を見たり、お子さまと話したりしていきます。ご家庭の希望や必要性に応じて、先生と話すこともできます。
園・学校訪問の際にご家族にいらしていただく必要はありませんが、希望する場合には2回目以降も相談に乗ることが可能です。その場合は、南まで連絡ください。

Q&A

相談できる日程は？

佐藤先生が大槌町を訪問する日程（おおよそ月に1回）に合わせて、水曜日終日と木曜日の夕方どこかで調整します。

プライバシーは守られますか？

初回相談の最後に必ず、園・学校に共有して良いこと、共有して欲しくないことをお聞きします。秘密は守るのでご安心ください。

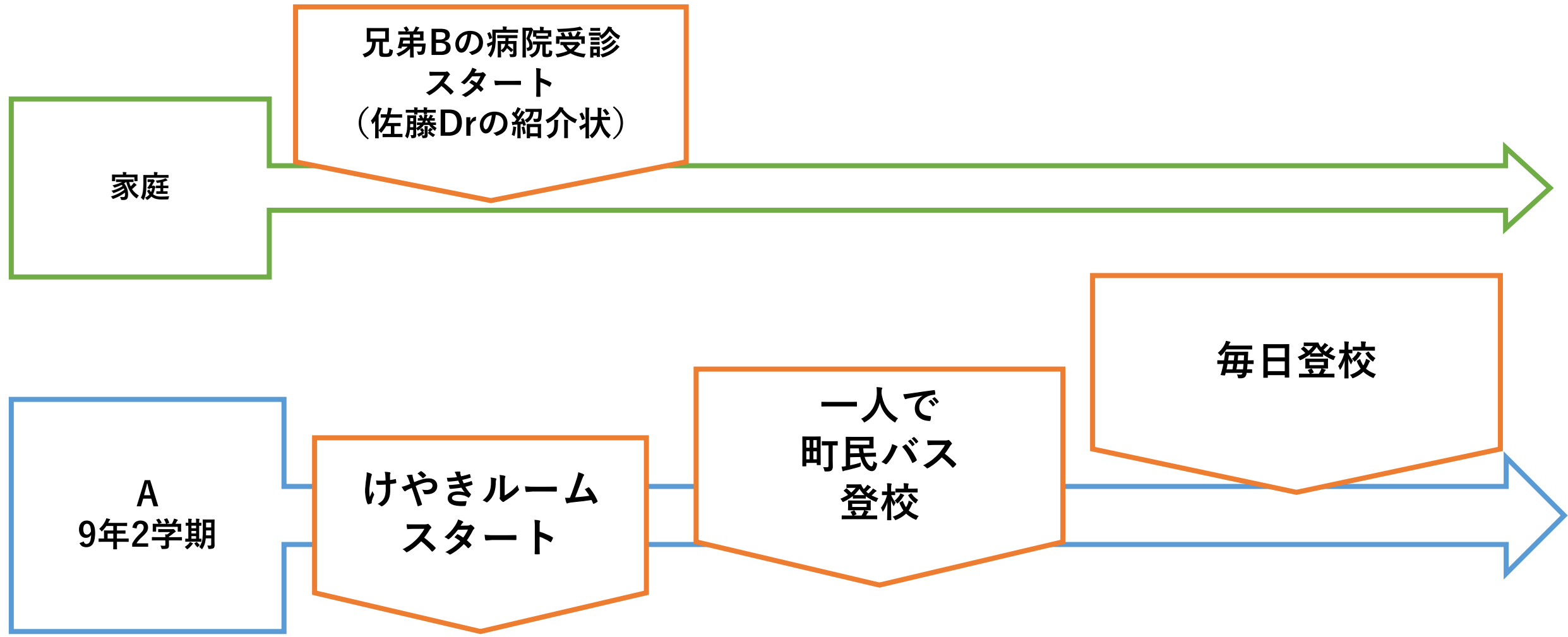
一人で相談するのが不安です

けやき相談チーム（SSW、SC、教育支援員）や担任の先生なども一緒に相談の場に入ってもらっても可能です。

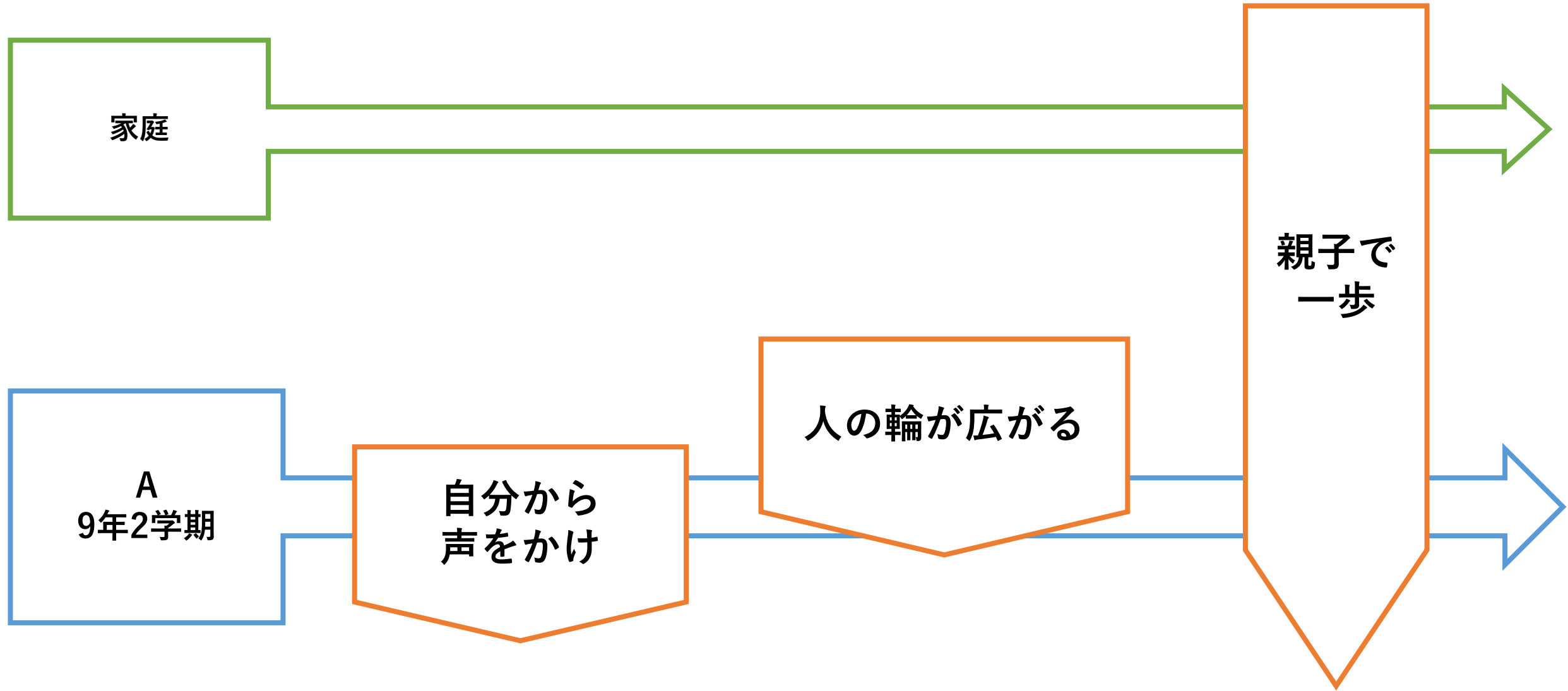
あまり時間が取れません

最初の相談だけは保護者の方も来てもらう必要がありますが、それ以降は、完全にお任せでも大丈夫です。こちらで、定期的に園・学校を訪問して子どもの様子を見ていきます。

不登校（傾向） 児童生徒への支援



不登校（傾向）児童生徒への支援



けやきから聞く 『現役高校生のリアルな高校生活』

○場所:大槌町こども教育センター
OLAI(大槌交番前)

○日時:2025年11月1日(土)
14時00分

○対象:中学部生徒・保護者、関心のある方

プログラム

第1部・・・現役高校生から

宮古高校 定時制

宮古高校 通信制

釜石高校 定時制

大槌高校 全日制

(学校生活etc...について)

第2部・・・意見交換

○申込:10月29日(水)まで

QRコードまたは、お問合せ先まで



勉強は、大変？
通えるコツは？

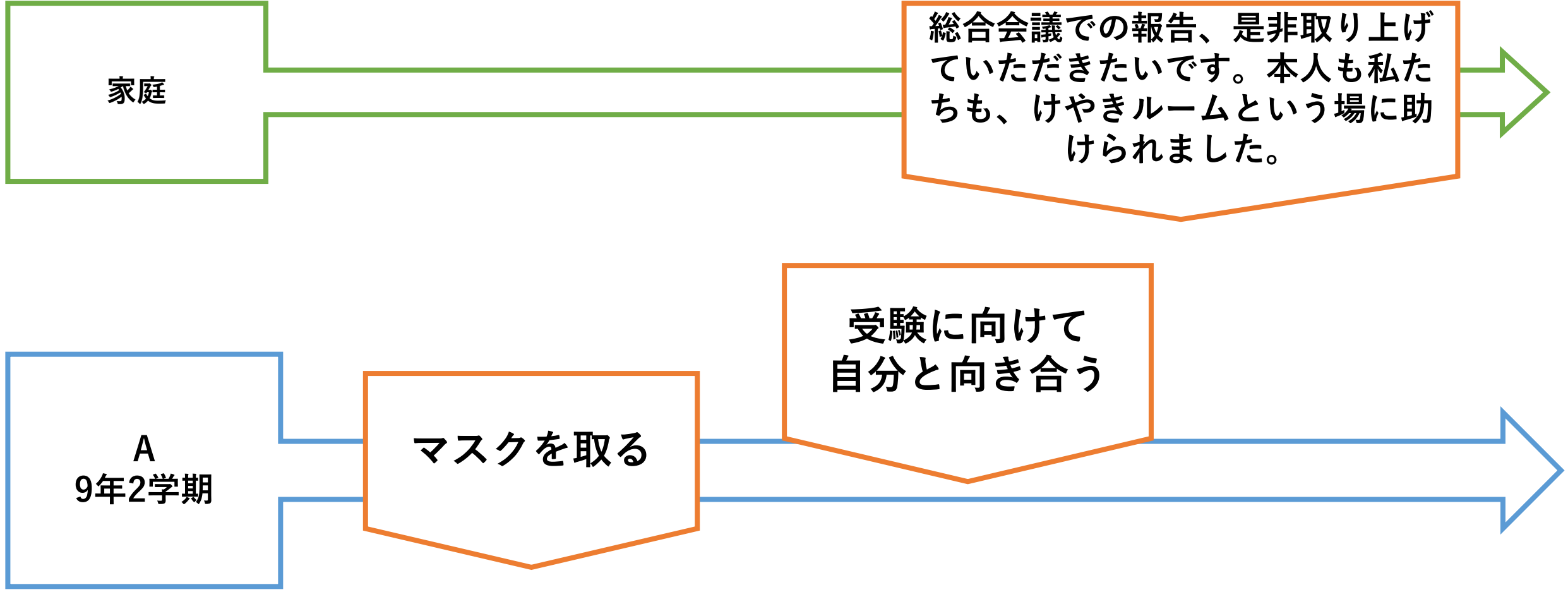


問い合わせ:大槌町教育委員会「けやき共育担当」:0193-42-6100

不登校（傾向）児童生徒への支援



不登校（傾向）児童生徒への支援



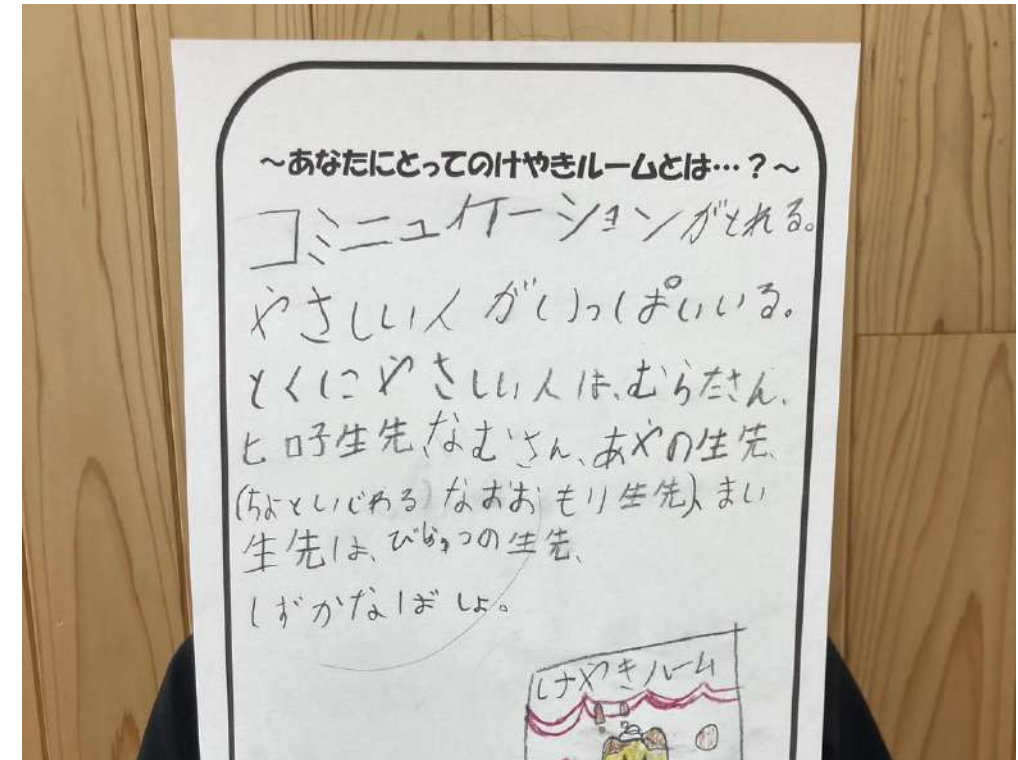
不登校（傾向）児童生徒への支援



あなたにとってのけやきルームとは？



いろいろな人と交流、勉強できる場所



- ・ コミュニケーションがとれる
- ・ 優しい人がいっぱいいる
- ・ 特に優しい人は、村田先生、浩子先生、南さん、彩乃先生、大森先生（ちょっといじわる）、舞先生は、美術の先生
- ・ 静かな場所

あなたにとってのけやきルームとは？



学校より勉強が分かりやすい所です

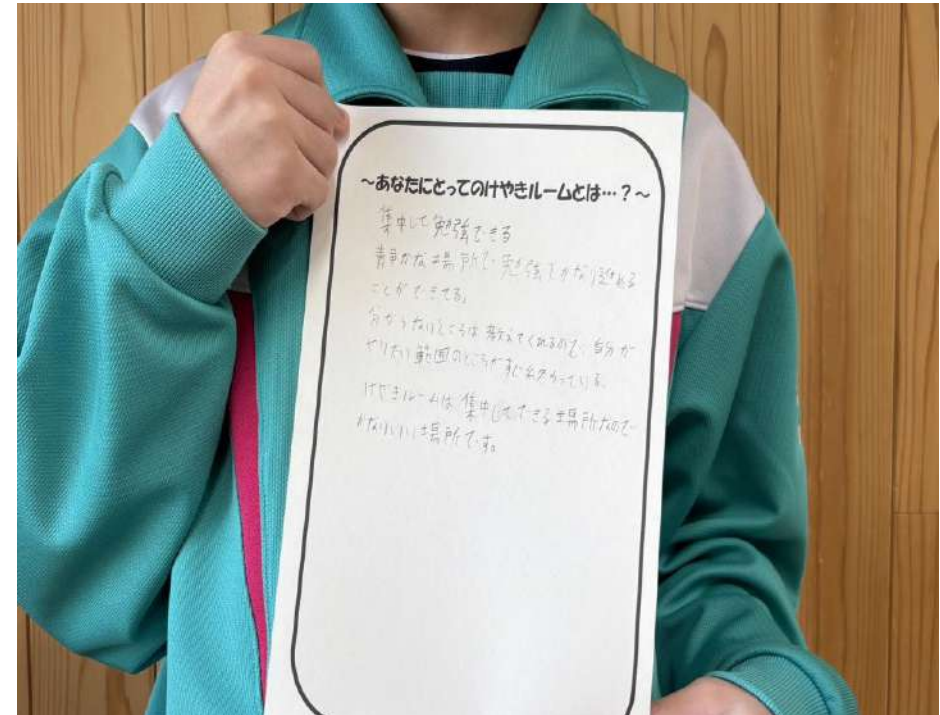


勉強が分かりやすくいろいろな人とコミュニケーションがとれます

あなたにとってのけやきルームとは？



- ・ 楽しく過ごせる場所
- ・ 静かに勉強できる場所
 - ・ 運動できる場所
- ・ 悪口を言われぬ場所



- ・ 集中して勉強できる
- ・ 静かな場所で勉強をかなり進められることができる
- ・ 分からないところは教えてくれるので、自分がやりたい範囲のところがすぐに終わっている
- ・ けやきルームは集中してできる場所なのでかなりいい場所です

不登校（傾向）児童生徒への支援

25年度「けやき共育」実績

	事業	対象	実施回数	1学期実績（人）	2学期実績（人）
1	けやきルーム (教育支援センター)	長欠の 小・中学生 (登録制)	授業日数	のべ 222 実数 15 (小：7、中：8、高：8)	のべ 474 実数 28 (小：7、中：13、高：8)
2	けやき相談会	長欠の 小・中・高生	1学期：4回	のべ 24件	のべ 16件
3	けやき保護者会	長欠児童生徒の 保護者	1学期：1回	のべ 16	のべ 12
4	全員面談	吉里吉里学園全員 大槌学園学年7年生	実施中	各学園進行中	
5	転校生の 家庭訪問・面談	転校生	随時	1家庭	
6	けやき子ども食堂	大槌学園小・中学生	1学期：6回	のべ 111	のべ 240

読み書きに関するリモート支援

- 児童生徒
大槌学園 2名
吉里吉里学園小学部 2名
- 内 容
尚絅学院大小池敏英教授の研究室の学生と、対象児童生徒とをリモートで繋ぎ、読み書きに関する支援を行う。
週1回30分で実施。



対応する教員、担任から

S児童 担任

- 音読に確実な変化が見られました。担任としてとても驚いています。
- 当該学年レベルまではいかずとも、力が大きく伸びているところです。
- 本人も「前より読めるようになった」と、手応えを感じているようです。
- 本人はこれからも頑張っていきたい、という思いをもっています。保護者も継続を希望しています。

K生徒（別室登校）担当教員

- リモート学習があるから学校に来なきゃ。」と話したり、テスト前に学習に取り組むことができたりと学習に対する意識の変化が見られた。
- 指導が分かりやすかったとも話していた。レベルが上がってきて刺激にもなっているようだ。

本日の説明 ～ 「けやき共育」 の進捗状況～



① 不登校（傾向）児童生徒への支援

ア 「けやき共育」の支援体制の構築と充実

イ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援
についての理解

② 新たな学びへの取り組み

③ 一貫した魅力的な教育を創る～幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施～

④ 令和 8 年度の推進計画

個別最適な学び及び一貫教育先進校視察

R7.10.28~29

視察先 大熊町立学び舎ゆめの森
岩手県立一関第一高等学校附属中学校

参加者 大槌学園前期課程 教諭 大槌学園後期課程 教諭
吉里吉里小学校 副校長 吉里吉里小学校PTA会長
吉里吉里中学校 教諭 幼保連携型認定こども園つつみこども園 園長
大槌町教育委員会 教育委員 大槌町教育委員会 学務課長
大槌町教育委員会SSW 大槌町教育委員会 指導主事 (計10名)

内 容

- 学び舎ゆめの森
 - ①取組紹介
 - ②校舎視察・授業参観
 - ③質疑応答・意見交換
- 一関一高附属中
 - ①公開授業
 - ②教科分科会



新たな学びへの取り組み

筑波大学附属小学校 R7.2.14~15

視察のねらい

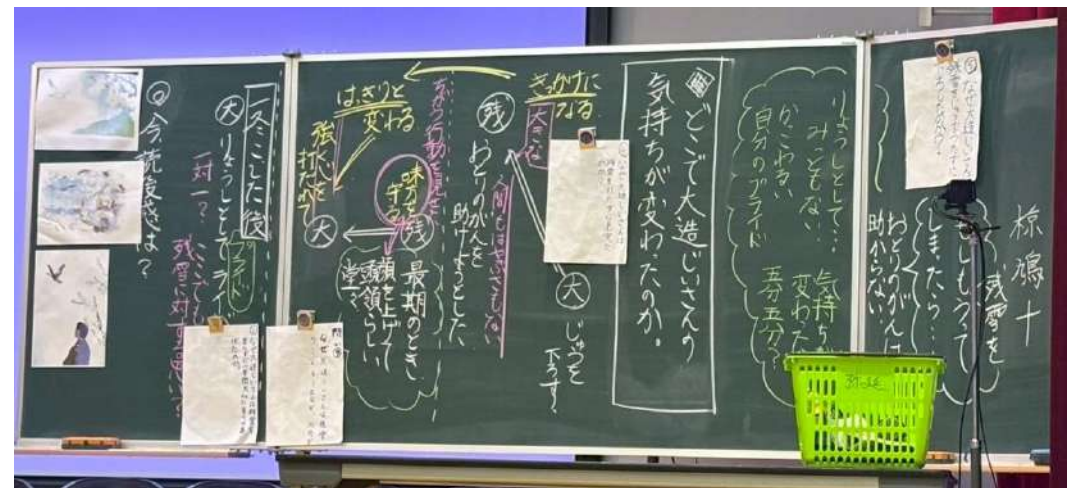
学びの本質に立ち返り、生きた授業づくりについての研究を推進している学校を視察し、各学園での研究推進の充実を図る。

視察内容

・学習公開・初等教育研修会に参加

参加者

大槌学園前期課程教諭1名
吉里吉里小学校教諭1名
指導主事1名



「大槌の教育」推進協議会全体研修会

R7.6.26 R8.1.29

目的 大槌町の教育活動の一層の充実を図るために教員の実践発表と教育に関する講演を行い、大槌町の教職員の実践力・指導力の向上を図る。

参加者 町内各学園の教職員（悉皆）
大槌高校教職員（希望）
幼保子ども園等（希望）

内容

- ①視察報告
- ②実践発表

③講演 第1回(R7.6.26)

「子どもとともに「主体的に学ぶ場」を創る」

講師 慶應義塾大学教授 鹿毛 雅治 先生

第2回(R8.1.29)

「学びに向かう学級集団作りと教師の学び方」

講師 大妻女子大学教授 澤井 陽介 先生



新たな学びへの取り組み

研修を通して学んだこと

- ・ 問いを持つことや選択をすることなど、学ぶ意義を感じさせる場面設定が大切であり、それこそが主体性の根幹を成すということ。
- ・ 流行りのように様々な学習形態が提示されるが、その先にある子供の変容や、どのような力が身に付いたかをよく見なければならぬこと。
- ・ 学びの土台として学級経営があり、心理的安全性が確保されてはじめて良い授業が成立し、深い学びへとつながること。

今後へ向けて

- ・ 視察の成果発表や講演を通して共有できたことを、授業を作る視点、授業を参観する視点として持ち、各学園の研究推進の充実を図る。
- ・ 授業作り等、指導主事も関りながら主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っていく。

本日の説明 ～ 「けやき共育」 の進捗状況～



① 不登校（傾向）児童生徒への支援

ア 「けやき共育」の支援体制の構築と充実

イ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援
についての理解

② 新たな学びへの取り組み

③ 一貫した魅力的な教育を創る～幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施～

④ 令和 8 年度の推進計画

令和7年度の取組

- 1 架け橋カリキュラム開発会議(①R7.5.9 ②R8.2.22)
- 2 保育体験(R7.7.29)
- 3 互見保育・授業
 - ①R7.11.5 おおつちこども園 年長
 - ②R7.11.21 大槌学園1年生
 - ③R7.12.17 つつみこども園 年長
- 4 ワークショップ



互見保育・授業

①R7.11.5 ②R7.11.21 ③R7.12.17

・ねらい

子どもの実態や指導のあり方など互いの教育についての理解を深め、教育活動の改善・充実を図る。

保育・授業参観を通して、遊びへの意欲や学びへの意欲を生むような保育や授業の在り方について考える。

・参加者 大槌町各幼保こども園職員
大槌町立各学園教職員

・開催日 R7.11.5 おおつちこども園 年長
R7.11.21 大槌学園1年生
R7.12.17 つつみこども園 年長

おおつちこども園 R7.11.5



大槌学園 R7.11.21



つつみこども園 R7.12.17



参加者アンケートから

- 今回の互見保育で感じたこと、協議で学んだことを自園の職員間で共有し合い**みんなで見直す機会にもなっています**。子供達にとってより良い環境作りについて、模索しながら出来ることから少しずつ……。短時間ではありましたが、**たくさんのかんじ、き付きを得ることが出来ました**。
- みんなで**楽しいを共有できる、そんな保育を心がけていきたい**など改めて気付かされました。
- 子ども達の意欲を大切に、質問に保育者が答えをすぐ出すのではなく、**考えさせる声掛け**をしてました。一緒に行った若い保育士も他の園を見て、感じる所・学ぶ所があったと思います。
- 学校の先生方が、保育施設の先生方の取り組みを見て、実際に学園で取り入れて**主体性を大事にしている事が授業を見て分かりました**。

成果として考えられること

- ・ 講義を通して県内での取り組みの様子や**幼児期の経験が就学以降の学びを支えている**ことを校種を越えて理解することができた。
- ・ 互見を通して、「**やってみたい**」という**子供の心の動きを大切に**した**環境設定や教師の関わり方**の重要性について考えることができた。
- ・ 保育体験では、それぞれの立場で大切にしていることや子供の発達について理解を深める研修会となった。

今後へ向けて

- ・ 互見保育・授業等、ねらいを明確にしながら取り組んでいく。
- ・ 今年度の取組から**架け橋カリキュラムを作成**し、来年度以降も工夫改善しながら事業に取り組んでいく。
- ・ 幼児教育アドバイザー、架け橋期のコーディネーターの配置。

本日の説明 ～ 「けやき共育」 の進捗状況～



① 不登校（傾向）児童生徒への支援

ア 「けやき共育」の支援体制の構築と充実

イ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援
についての理解

② 新たな学びへの取り組み

③ 一貫した魅力的な教育を創る～幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施～

④ 令和 8 年度の推進計画

大槌町 けやき共育の体制

大槌町の0歳から18歳までの全ての子どもたちを対象に、特別ニーズ教育の視点で支援することで「目指す子どもの姿（自立・協働・創造）」「誰一人取り残さない学びの保障」の実現を目指す。

学校



- ・ 日常的な支援・指導
- ・ ケース会議の開催
- ・ 研修による教員及び支援員の資質向上

保護者



- ・ 教育相談の利用
- ・ ペアトレ等研修会への参加
- ・ 保護者サロンの利用

児童・生徒



誰一人取り残さない
学びの保障

- ・ 学校サポーター

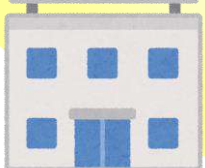


地域

- ・ SC、SSWの派遣
- ・ 各学園・園への専門チームの派遣
- ・ ケース会議、町教育支援委員会の開催
- ・ 各研修会の企画・実施（教員支援員・保護者対象）

- ・ 教育相談の実施
- ・ 「多様な学びの場」の整備
- ・ 関係機関との連携強化

町役場



教育委員会

町専門チーム

- ・ SC・SSW
- ・ 教育相談員
- ・ 児童精神科医師
- ・ 特別支援教育関係
- ・ 各事業所
- ・ 健康福祉課 他
- ・ 宮古児童相談所
- ・ 沿岸発達支援センター
- ・ こどもケアセンター 他

特別支援教育エリアコーディネーター、釜石祥雲支援学校 他

関係機関

- ・ 日常的な支援
- ・ 就学時の確実な引き継ぎ（ぼけっとの活用）
- ・ 専門チームとの情報共有
- ・ 町の教育相談、随時相談の活用
- ・ 研修による保育教諭等の資質向上



幼稚・保育・こども園

令和8年度の推進計画

月	実施内容	備考
4	○特別支援担当者および支援員研修会（発達の特徴と支援のあり方、個別の支援・指導計画の作成） ○発達支援ミーティング(健康福祉課主催)	
6	○第1回総合教育会議	全体計画・共有
7	○大槌町小中一貫教育・コミュニティ・スクール推進状況アンケート（教員対象） ○大槌町学習・生活アンケート(児童・生徒対象)	評価・検証
9	○LDに係る研修会（LD傾向の幼児・児童に対する支援のあり方）	
11	○第2回総合教育会議 ○先進地視察	経過確認
12	○大槌町小中一貫教育・コミュニティ・スクール推進状況アンケート(教員対象) ○大槌町学習・生活アンケート（児童・生徒対象）	評価・検証
1	○大槌の教育推進協議会	
2	○第3回総合教育会議	まとめ
3	○就学サポート会議(保健福祉課・学務課等) ○今年度の事業のまとめと来年度の計画	
随時	○心理検査の実施及びアセスメント ○各学園ケース会議への参加	○けやきケース会議（けやきルーム利用者について） ○健康福祉課によるケース会議
定期	○支援者定例会（学務課主催）	○けやき個別支援会議



「けやき共育」の進捗状況について

大槌町教育委員会